### 東京都立小岩高等学校 令和6年度 学校経営報告

### 1 今年度の取り組み目標と方策

- (1) 学校経営・組織体制
- ① 前年度から開催日(曜日)変更、オブザーバー制導入、資料部数各2部回覧等の変更と、分掌間の 事前調整推進の結果、企画調整会議は機能しはじめ、分掌会議との双方向性は向上し、情報共有に ついても改善された。(企画調整会議終了後、平日2日以内に分掌内回覧完了は概ね達成)
- ②③④ 分掌間や委員会及び教科等の連絡等、校内の調整円滑を推進した。分掌や教科等の計画的で組織的な業務遂行を推進した。長期休業期間を「年休取得促進期間及び定時退庁促進期間」、毎学期の定期考査期間を「定時退庁ウィーク」とした。超過勤務時間については、前年度比で80時間超年間延べ人数84%、産業医面接者年間延べ人数73%となった。
- ⑤ 分掌や教科等において、計画的・組織的に O J T を実施するよう教員個々に働きかけ、全員が O J T 実施を意識し実践していた。計画性と組織的対応をさらに向上させたい。
- ⑥ 服務事故を根絶するため、教職員全員対象の服務事故防止研修を年3回実施し、服務の厳正を徹底と学校運営の適正化に努めた。

### (2) 学習指導

- ① 生徒の実態に応じて、主体的・対話的で深い学びを効果的に実践し、協働的な学びを推進すると ともに、生徒の学力を向上させることを、担当者個々と共有し推進した。より効果的で効率的な取 り組みへとブラッシュアップさせていきたい。
- ② ICT機器や生徒一人1台端末を活用し、個別最適な学びを推進するとともに、より効果的で効率的な授業を展開するよう推進した。授業観察時に一人1台端末を活用した担当者は24名まで増加した。研究授業において一人1台端末を活用した授業は14回(目標10回)であった。
- ③ 前年度まで未実施であった生徒による授業評価を新規導入実践した。その結果を分析し、授業に反映することを担当者と共有した。
- ④ 初任者研修・2年次研修・3年次研修、中堅教諭資質向上研修は年間計24回実施した。教員間の授業相互見学は全員が年間3回以上の実施とし、全教員の授業力向上を推進した。
- ⑤ 長期休業日における講習・補習等を積極的に行い、基礎・基本の定着を図ることを推進した。夏期講習は前年度比で講座数157%、受講者数160%と大きく増加した。
- ⑥ 放課後の講習・補習の実施と宿題の提出、そして自習室の開放を推進し、学習習慣を高め、自学 自習を支援することを推進した。3年担任からの提案で朝の自習室も開設した。
- ⑦ 読書を積極的に奨励し、生徒の知的好奇心を高め、教養の涵養、読解力の向上を図った。図書館の本の貸出数は昨年度比で87%にとどまった。次年度から図書館支援員の配置校となるため、確実な引継ぎと校内体制の構築を推進する。
- ⑧ 英語の論理表現Ⅱで習熟度別授業、体育や芸術での少人数授業等を通じて、個に応じた学習指導の徹底を図り、学習の質を向上させた。
- ⑨ 生成AI研究校の指定を受け、都立学校において、生成AIの教育活動での活用に関するパイロット的な取組を推進した。東京都の高校や全国の高校及び東京都教育委員会からの視察を多数受け、高い評価を得た。
- ⑩ 令和6年度高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金(高等学校 DX 加速化推進事業)の交付を受け、デジタル等成長分野を支える人材育成の充実を図る取り組みを推進した。事業自体の事務手続きが大きく遅滞し、今年度内に計画していた取り組みが実施できなかった。次年度の交付も見込み、計画を推進する

### (3) 進路指導

① 進路部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、各学年と進路部の連携を深め、生徒の目標実現に向け、きめ細かな指導を推進した。学年ごとには適正に実施できたが、

学校全体として統一された3年間を見通したキャリア教育の計画的な実施が課題となった。

- ② 大学入試、公務員・就職試験合格に向けた講習を組織的・積極的に行うとともに外部模試を有効的に活用し、第一志望を諦めない生徒の姿勢を育成した。
- ③ 模擬テストの結果分析に基づく個別相談や個別学習指導について、1学年、2学年の各学期の個別面談で希望進路に応じた指導を行った。
- ④ 勉強合宿(夏季・冬季)をより活性化させ、組織的に運営することにより、学習習慣の定着を図るとともに、実力養成を推進した。参加人数は前年度比で、夏季127%、冬季286%と、冬季勉強合宿が大きく増加した。
- ⑤ 今年度の大学合格者は、国公立の2名、早慶上理2名+GMARCH14名+日東駒専レベル109名となり、大学進学者の割合は全体の62.6%となった。その他の進路では、短期大学0.6%、専門学校19.9%、公務員含む就職1.75%となった。

また、志望する専門学校進学率100%、公務員内定率0%、就職内定率100%となった。

### (4) 生活指導

- ① 生徒の自律心や自己管理能力を育成する指導を全校体制で実践することを目標としたが、全校体制という部分では課題が残った。
- ② 生徒部を中心とし、各学年との連携を深め、全教員で全生徒を指導することをモットーとして教員による声かけを徹底して行うことを目標としたが、全教員が同じ基準で指導することはできなかった。拡大生徒部会を開催する等共通理解を図る機会はあったが、学校全体の共有には至らず、課題となった。
- ③ 社会人としてのマナーやTPOについて、理解を深めさせ、適切な判断ができるよう指導することを目標とした。理解が浅く、適切な判断ができない生徒も散見されるため、継続的な指導が必要である。
- ④ 時間や期限を守ることの重要性について理解を深めさせ、自律的な行動の意識を向上させるよう 指導した。1日の遅刻者数は32.8名であった(目標は25名以下)。
- ⑤ 生命尊重の態度を育成するとともに、日常の生徒観察とポジティブな声掛けを行い、生徒情報の 校内共有体制と生徒からの相談体制を充実させ、SCや外部機関との連携も活性化させた。生徒相 談委員会は毎月定例1回、年間11回開催された。
- ⑥ 暴力や体罰の禁止・根絶について、学校全体で共有・徹底し、安全で安心な学校をつくることを 目標とした。教職員向け服務事故防止研修や生徒への講話及び調査を年3回実施した。
- ⑦ いじめ対策について、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の言動・行動に注意を払い、組織的な情報共有を通して、未然防止・早期発見・早期対応に努めた。いじめアンケートへの初期対応が遅くなるケースがあり、次年度への課題となった。
- ⑧ 安全教育プログラムに従い、危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質 や能力の育成を推進した。また、互いの人権を認め合い、自他の生命と人権を尊重する態度の育成 を推進した。しかしながら一部生徒に不適切な行動も見られた。引き続き組織的な指導を継続する。
- ⑨ 教員による交差点など危険箇所での立ち番指導、駐輪指導を実施するとともに、生徒会役員生徒による自転車登校マナー向上キャンペーンを年3回以上実施して、生徒に交通ルール、マナーを遵守させて、自転車事故根絶を図ることを推進してきた。今年度から生徒の登校時間を遅らせたことにより、近隣の小学校児童との登校時間の重複が回避でき、校外での立ち番指導の必置は行わなかった。次年度も交通安全教育を推進する。
- ⑩ 生徒の生命を守るため、自転車乗車時のヘルメット着用について、全校体制での指導を推進した が、ヘルメット着用生徒は一部にとどまった。次年度は全員着用を目指した指導を推進する。
- (5)特別活動・部活動
- ① 生徒及び諸活動に関わる全員の安全や健康を最優先として実施することを推進した。体育祭では 昨年度の反省により、午前中二日間開催として熱中症防止に努め、安全な体育祭となった。 文化祭では、校内の安全対策については十分準備したが、外部不審者による在校生の安全を脅か す被害が発生した。次年度への課題となった。
- ② 生徒主体で自律的な活動となるよう支援し、更なる活性化を図ることを目標としたが、安全や健

康を最優先としたがために、教員主導の計画の部分が多くなっていた。

- ③ 学習と両立し、学校行事、委員会活動等に主体的かつ積極的に取り組ませ、生徒会役員及び各委員がそれぞれリーダーシップを発揮し、活力ある学校づくりを推進・指導することを推進してきた。
- ④ 体育祭「一体感」、文化祭「おもてなし」、合唱祭「ハーモニー」という伝統のテーマに基づき、 自主自律の精神で、生徒の主体的な活動を指導・支援してきた。学校評価アンケートにおける生徒 の学校行事に対する肯定的な意見は96%を超えている(目標90%以上)。
- ⑤ 1年生に対する「部活動ひっぱり会」を充実させ、3年間部活動を継続させる指導を行う。年度の途中入部の促進、勧誘等により、部活動加入者の増加を図ったが、部活動加入率は78%にとどまった(目標85%以上)。
- ⑥ 部活動は、東京都の学校部活動にかかわるガイドラインに準じて、文武両道が推進できるよう活動計画を立案し、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進している。
- ⑦ 部活動の活動は、週当たり2日以上の休養日を設ける(平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は、他の日に振り替える)。
  - 1日の活動時間は、長くとも学期中の平日は2時間程度とし、週休日及び長期休業中は3時間程度とする。生徒の土日連続の部活動実施は、公式戦参加等を除き原則不可とする。ライフ・ワーク・バランスの観点から、部顧問は、土日祝の活動の担当に、可能な限り偏りのないよう顧問間で調整することとした。活動日程や時間については、例外時は管理職に報告して対応しており、概ね問題なく進行している。活発な部活動の顧問の超過勤務時間の多さが課題である。
- ⑧ 『科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果が得られるような合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する』ことを趣旨としている「「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、短時間で効果が得られるような合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進し、更なる技能や記録の向上を目指してきた。今年度で事業が終了し、次年度の後継事業もないため、現指定部は次年度の活動に支障をきたしている。
- ⑨ 中学生の部活動体験や合同練習などにより、小岩高校の部活動を発信した。
- ⑩ 教科「人間と社会」を活用し、社会人として生きる意識・力を身につけさせる一環として、地域における体験学習などを通して、異年齢や多様な人々と交流を深めることを目標とした。
- ① 英語教育研究推進校・海外学校間交流推進校として、オリンピック・パラリンピック教育、東京都の次世代リーダー育成道場や希望者に対するTGG訪問、オンライン英会話、オンライン及びメールを活用した海外交流、JETによる英会話活動、様々な教育活動の中での在日留学生との交流、などを実施し、国際交流を一層積極的に推進して、将来の国際社会への関心を高めることを目標とした。英語教育研究推進校・海外学校間交流推進校として、希望者向けに夏季休業中の海外英語研修を創設し、次年度から実施することになった。
- ② 日本の伝統・文化の良さを理解し、様々な国や地域の方に発信できる生徒の育成を図った。
- ⑤ 特別支援教育の理解推進と充実を図る。今年度も鹿本学園との交流を行い生徒間の絆は深まった。
- ④ 地域ボランティアや体験活動に年間2回参加した(目標3回以上)。

### (6) 心身の健康づくりと安全教育

- ① 薬物乱用防止教室、防災教育など生徒の生命、安全を守るための指導を徹底するとともに、学校 全体の危機管理体制を強化してきた。
- ② 体力テストの実施、体育授業、学校行事、部活動を通じて、1学年より生涯スポーツの精神を理解させ3年間を計画的・系統的に指導し、運動技術、体力の向上、精神面の強化を図った。
- ③ 学校保健委員会、安全衛生委員会を中心に、教職員、保護者、地域、関係機関との連携を強化し、 生徒及び教職員の健康づくりを推進した。
- ④ 管理職、特別支援コーディネーター、生徒部主任、養護教諭、各学年担当、スクールカウンセラーからなる教育相談委員会を月1回年間11回開催(目標は10回)し、生徒情報を共有し、対応を検討した。
- ⑤ 感染症、アレルギー反応への対応等に対する意識を高め、発生を未然に防ぐ予防指導、感染拡大 を防ぐ組織体制を継続的に確立してきた。複数の学級閉鎖はあったものの学年閉鎖や学校閉鎖等、 大規模な感染拡大には至らなかった。

- ⑥ 清掃強化日をもうけ、施設の清掃活動の徹底、ゴミの分別・減量に努め、校内の美化・環境 整備 を推進した。校内の美化は募集活動にも寄与している。
- (7)募集・広報活動
- ① 都立学校開放事業に基づき、校内施設の開放や公開講座を実施し、小中学生、地域との連携を深め、地域貢献を図った。また、地域ボランティアや体験活動参加を推進した。
- ② ホームページの更新、アクセス回数を増やし、在校生、中学生及びその保護者、また地域の方々に適時、適切な発信を行った。
- ③ 中学校との連携を図り、授業公開、出前授業、学校見学・説明会、部活動見学等を充実させた。 今年度より、生徒による広報活動を導入し、好評を得た。授業公開・学校見学会・学校説明会等 の来場者は約3,500人となり、目標2,500以上を大幅に超えた。
- ④ 生徒による母校訪問等で本校の教育活動の特色を発信した。
- (8) 経営企画室体制
- ① 学校経営計画や予算編成指針に基づき、課題意識を常にもち、積極的に学校経営に参画する。また、限られた予算を計画的・効果的に執行した。
- ② 服務事故を根絶するため、服務の厳正を徹底し、業務の適正化に常時努めた。
- ③ 学校の総合窓口として電話対応や来校者に対して、誠意をもって丁寧に対応した。
- ④ 業務全般を理解するとともに、教員と連携・協力しながら業務を遂行して、担当部署のスキルアップを図る。また、委託業者の職員等との報告・連絡・相談を密に取りながら、学校教育に支障のないように連携を図った。
- 2 学校評価アンケートの概要 ※( )は昨年度の数値

回収率(数)は以下のとおりである。

生徒 =1年生100%、2年生92%、3年生90%、全体94%

保護者=1年生68%、2年生74%、3年生71%、全体71%

教職員=76%

地域等の回答総数は83

#### (1) 学校満足度

設問1の『生徒は小岩高校での高校生活に満足している』の「そう思う」と「大体そう思う」を合計した肯定的な回答は、生徒1年生92%(95)、生徒2年生92%(94)、生徒3年生96%(94)、保護者88%(91)、教職員100%(90)と高く、設問3の『小岩高校に入学してよかった』の肯定的な回答は、生徒1年生93%(95)、生徒2年生94%(92)、生徒3年生94%(93)、保護者88%(92)、教職員98%(86)と非常に高い。

### (2) 学習指導

設問 5 の『授業は進路実現のために必要な学力を身に着けさせるのに十分な内容である』の肯定的な回答が生徒 1 年生 8 3 % (86) 、生徒 2 年生 8 1 % (81) 、生徒 3 年生 7 1 % (79) 、教職員 6 8 % (76) となり、多様な進路を目指す生徒が在籍する本校においては、「個別最適な学び」の推進が必要となる。設問 2 の『学校は落ち着いて授業に集中する雰囲気である』の肯定的な回答は、生徒 1 年生 5 7 % (71) 、生徒 2 年生 9 4 % (63) 、生徒 3 年生 5 6 % (62) 、保護者 7 8 % (78) 、教職員 6 6 % (66) と、数値が昨年度比較も含め、学年ごとに大きく異なっている。 1 年生 2 3 年生における数値の低さは喫緊の課題であり、授業規律含め授業改善が求められる。

### (3) 進路指導

設問 7 の 『学校は 3 年間を見据え、学年段階に応じた計画的な進路指導を行っている』の肯定的な回答は、生徒 1 年生 8 4 % (8 9)、生徒 2 年生 8 4 % (8 4)、生徒 3 年生 7 9 % (8 5)、教職員 7 7 % (7 9)であり、設問 9 の 『学校は生徒一人ひとりの個性に対応した進路指導を行っている』の肯定的な回答は、生徒 1 年生 8 5 % (8 9)、生徒 2 年生 8 3 % (7 7)、生徒 3 年生 7 7 % (8 7)、保護者 7 2 % (7 4)、教職員 8 0 % (8 6)と高い評価となっている。

### (4) 生活指導

設問12の『学校は生徒の服装や身だしなみに対する指導を十分行っている』の肯定的な回答は、生徒1年生93%(90)、生徒2年生91%(86)、生徒3年生90%(89)、保護者68%(67)、教職員50%(41)であり、設問13の『学校は挨拶、言葉使い、交通ルールの遵守など、社会の一員としての態度を身に着けるための指導を十分行っている』の肯定的な回答は、生徒1年生89%(88)、生徒2年生88%(88)、生徒3年生87%(90)、保護者78%(80)、教職員57%(55)となっている。生徒と教職員の数値の乖離が顕著であり、生徒に、身だしなみ含め「社会の一員としての態度」について意識レベルを向上させていく必要がある。

### (5) 心身の健康づくりと安全教育

### (6) 特別活動・部活動

設問 21 の『生徒は体育祭や文化祭、また合唱祭や球技大会などの行事を主体的に取り組んでいる』の肯定的な回答は、生徒 1 年生 9 7 % (9 8 》、生徒 2 年生 9 6 % (9 8 》、生徒 3 年生 9 6 % (9 8 》、大徒 3 年生 9 6 % (9 8 》、大徒 3 年生 9 8 》、大き 3 年生 3 8 《 4 8 8 % (9 8 》、大き 4 个 4 《 4 》 (4 8 8 % (4

#### 3 次年度以降の課題と対応策

### (1) 学校経営・組織体制

① 企画調整会議のさらなる機能向上

今年度以上に、年間を見通した早期立案と事前調整を経た提案の推進と、分掌会議等との双方向性のさらなる確立及び早期で確実な情報共有の推進を図る。オブザーバー制と各分掌等紙資料2部配布は継続する。

② 教員の超過勤務時間の縮減 (ライフ・ワーク・バランスの推進)

次年度から、部活動等延長活動最終下校時18:20設定、部活動ガイドラインの遵守徹底、部活動指導員の趣旨に沿った効果的な活用、部活動顧問教諭の分業制推進により、部活動に起因する超過勤務時間を縮減する。計画的・組織的な業務進行管理徹底による合理的で効率的な業務遂行により、超過勤務時間を縮減する。

- (2) 学習指導(確かな学力の育成)
  - ① 「主体的・対話的で深い学び」のさらなる推進(問いの質の向上により学びを深める)
  - ② ICT機器やデジタル端末活用による「個別最適な学び」の推進(上位層への指導の工夫)
  - ③ 一人1台端末活用の日常化(効果的な活用の開発と共有)
  - ④ 授業規律の徹底(落ち着いて授業に集中する雰囲気の確保)

## (3) 進路指導

- ① 本校の「3年間のキャリア教育の流れ」の構築を目指し、進路指導部が中心となり検討を進める。
- ② 生徒の多様な進路選択について、サポートの充実を図り、的確な指導により、生徒が目標を明確にしたうえでの妥協なき進路実現を目指させる。

### (4) 生活指導

- ① 生活指導の基準共有と全校での指導体制の確立を推進する。
- ② ①により、生徒の「社会の一員としての態度」の意識レベルを向上させる。
- ③ ①②により、生徒の「ルールを守る」意識を向上させる。

### (5) 特別活動・部活動

- ① 今年度以上に、学校行事を生徒の主体的活動として設計し、支援する。(安全は学校が管理する)
- ② 文武両道を前提に、部活動の活動計画をたてる。(部活動ガイドラインの遵守)
- ③ 年間を通して、部活動加入を奨励し、部活動加入率を向上させ、学校を活性化する。

### (6) 心身の健康づくりと安全教育

- ① 生徒は、教員の姿勢を高く評価しており、いじめ防止や体罰等防止への取り組みに対しても評価は高いが、さらに生徒が安全で、安心して学校生活が送れるよう組織的に取り組む。
- ② 生徒相談委員会をいじめ対策委員会と合併し再整備して、より組織的な取り組みを推進する。

# (7) 募集·広報活動

- ① 今年度、生徒の広報活動への参加は効果的であり好評を得た。今後はさらに拡大させる。
- ② 「本校の期待する生徒の姿」に合致する中学生を対象とした広報活動を展開する。